

八戸工業大学創立 50 周年記念事業 — 「感謝」を伝え、「進化・成長」を誓う —

坂本禎智[†]・金子賢治^{††}・阿波 稔^{††}・大黒正敏^{†††}・
小玉成人^{††††}・大野和弘^{†††††}・関 秀廣^{††††††}

The 50th Anniversary Projects of Hachinohe Institute of Technology — Conveying “Appreciation” to the Community and Pledging to “Evolution and Growth” —

Yoshinori SAKAMOTO[†], Kenji KANEKO^{††}, Minoru ABA^{††}, Masatoshi DAIKOKU^{†††},
Naruhito KODAMA^{††††}, Ohono KAZUHIRO^{†††††} and Hidehiro SEKI^{††††††}

ABSTRACT

Hachinohe Institute of Technology was established in 1972, and the year of 2022 marked the 50th anniversary of its founding. Under this background, we have implemented 6 projects to look back on the 50 years since our founding as the institute, express our gratitude to the local community, envision the future, and pledge to evolve and grow. This report introduces the contents of these anniversary projects. Through the 50th anniversary commemorative projects, we hope that by presenting an overall image of the institute from the perspective of inner branding and outer branding, we will be able to build closer ties with the local community in the future.

Key Words: *Hachinohe Institute of Technology, inner branding, outer branding,
the 50th anniversary commemorative projects*

キーワード : 八戸工業大学、インナーブランディング、アウトナーブランディング、創立 50 周年記念事業

1. はじめに

「八戸工業大学」は、「学校法人八戸工業大学」傘下の高等教育機関である。当該法人は、昭和 31 年（1956 年）に、地域の主産業である水産業のための無線通信技術者育成のため、八戸高等電波学校を開設されたことに始まる。その後、八戸周辺地域の工業地帯としての発展に伴い、その人材育成と研究開発の充実を図ることが必要となり、本学は、地域の大きな期待を背負い、法人関係者の献身的な尽力により昭和 47 年（1972 年）に開設された。当初、工学部 3 学科でスタートした

[†] 学長

^{††} 工学部工学科建築・土木工学コース・教授

^{†††} 工学部工学科機械工学コース・教授

^{††††} 工学部工学科システム情報工学コース・教授

^{†††††} 事務部・事務部長代行

^{††††††} 工学部工学科電気電子通信工学コース・教授

が、地域産業の拡大と地域社会の要請に応えるために、学部・学科の増設、大学院の新設を経て、現在、工学部、感性デザイン学部の2学部2学科、大学院工学研究科3専攻を有する大学として成長してきた。Photo.1-1 と Photo.1-2 にキャンパス配置の半世紀を経た変遷を示しているが、ここにも成長・発展の後が見られる。これまでに、大学院生は、修士 506 名、博士 67 名が修了、学部生は 19,148 名が卒業し、様々な分野、地域、場所で社会の発展を支える人材として活躍している。1) - 4)

本学は、2022（令和4）年に創立50周年という大きな節目を迎えた。ここに至るまで、オイルショック、リーマンショック、18歳人口の減少、東日本大震災等々に遭遇しながらも、地域の理解・支援があればこそ現在に至ることができた。これを受けて2021（令和3）年6月17日開催の八戸工業大学創立50周年記念事業（以下、記念事業と略す。）の部会長会議において、坂本禎智学長から『創立から50年を振り返り、地域へ「感謝」を伝え、その先の「未来」を描き、「進化・成長」を誓う』という精神を持って、記念事業活動を開始することが宣言された。5)

2. 記念事業の目的と組織

記念事業の目的としては、所属する学生・教職員のインナーブランディングとステークホルダーへのアウトナーブランディングとで本学に関する価値認識を高めることとした。前者の内容としては、八戸工大を知る、誇りを持つ、帰属意識の高揚、修学意欲、就業意欲の向上、同窓会活動の活性化があり、後者としては、ステークホルダーの認知度向上、学生募集力、就職力の強化。各地域へのブランド力波及（八戸地域・青森県・岩手県・秋田県・東北地方...）、同窓会との連携強化を目的とした。

Fig.2-1 に記念事業の組織図を示す。暫定実行委員と事業計画WG（準備委員会）で位置づけ・概要・行動指針を定めた後、実行委員会の各部会が具体的な活動を行なった。なお、重要事項の協議は、事業部会長で協議後、部長会で提案し、各部局協議を経て部長会で承認を得るフローとした。事業の実行委員会はA部会からF部会までの6部会から構成され、次の活動を行なった。



Photo.1-1 1970年代創立当時の八戸工業大学



Photo.1-2 50周年を迎えたキャンパス：
創立時の5棟が18棟へ増築

- A：記念事業部会では、(1) 学生がつくる50周年事業、(2) みんなの広場事業(寄付活動対象事業)、(3) ビジュアル・アイデンティティ事業、(4) 業績・貢献・回顧資料整理事業に取り組んだ。
- B：記念行事部会では(1) 記念式典(2) 記念祝賀会、(3) 記念講演会/記念シンポジウムで各行事の具体化を促進した。
- C：記念誌部会は八戸工業大学創立50周年を記念し、大学の歴史、現況、および将来の展望について記録し、アウトター & インナーブランディング活動の一環として、地域貢献を含めて活動を示し、ステークホルダーへ本学の位置付けを明確にし、認識を深めるために記念誌を出版するとして活動した。
- D：広報・広告部会では、ステークホルダー学生への周知、大学Webページの創立50周年記念ページ立ち上げ・運営、学内広報用ポスター制作、マスメディアの活用などについて采配を振った。
- E：記念改組部会は、(1) 本学教育システムの広報(パネル展示・Webによる広報など)を行なった。
- F：総務部会活動は、(1) 庶務・渉外、(2) 予算管理に対応した。

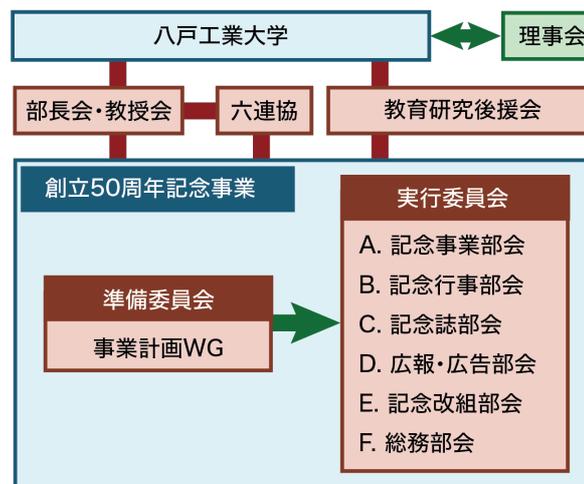


Fig.2-1 創立50周年記念事業の組織図

Table 2-1 に記念事業に携わる組織とその構成を示す。各事業部会には部会長が置かれ、学長が主宰する部会長会議にて協議・連携して事業全体をプロモートした。

Table 2-1 記念事業に携わる組織とその構成

事業部会		部会長	メンバー ◎：リーダー	関係部署
A.	記念事業部会	坂本・金子	◎坂本・◎金子	社連携・法人
A①	学生がつくる50周年事業		◎太田・石毛・安部・斎藤	-
A②	みんなの広場事業		◎西尾・金子・本間・宇野・黒滝	-
A③	ビジュアル・アイデンティティ事業		◎高屋・小藤・宇野・谷津・畑中・坂本	-
A④	業績・貢献・回顧資料整理事業		◎高橋晋・小玉・竹内	-
A⑤	まちなかキャンパス事業		◎坂本・金子・太田・高屋・高橋晋・西尾	学務部・学友会
B.	記念行事部会	大黒	◎大黒・佐藤学・杉本	事務部
C.	記念誌部会	関	◎関・岩見・信山・川守田・濱田・竹本	入試部・法人
D.	広報・広告部会	小玉	◎小玉・川本・谷津・佐藤南	図書館・社連携
E.	記念改組部会	阿波	◎阿波・佐々木・栗橋	学務部
F.	総務部会	大野	◎大野	事務部・法人

3. A 記念事業部会

3-1. A①～A④の記念事業

創立 50 周年記念イヤーに先立ち、Table 3-1 に示す A①～A④の 4 事業が開始された。

「A① 学生がつくる 50 周年事業」は創立 50 周年記念学生チャレンジプロジェクトとして実施された。学生チャレンジプロジェクト事業（略称：学チャレ）は、八戸工業大学に在籍する大学院または学部学生が、自ら企画する調査・研究、地域貢献、ボランティア活動などのプロジェクトについて助成することを目的とした事業である。学生自らが若者らしい感性で、企画・計画、実践することでキャンパス生活をより充実させる機会を提供する。採択を受けたプロジェクト一覧を Table 3-2 に示す。

「A③ ビジュアル・アイデンティティ事業」では、本学のアイデンティティを確実に、より広く発信していくため、シンボルマークを Fig.3-1 のように制定した。2020 年（令和 2 年）11 月 1 日～12 月 10 日にシンボルマークの一般公募を行い、全国の 10～80 歳代の幅広い年齢層から 620 点

Table 3-1 A 記念事業部会における事業総括

A① 学生がつくる 50 周年事業（創立 50 周年記念学生チャレンジプロジェクト）	
	募集 1 次:2021 年 5 月 24 日-6 月 30 日, 2 次:2021 年 10 月 25 日-11 月 5 日, 3 次:2022 年 5 月 9 日-5 月 20 日
A② HIT みんなの広場事業（寄付活動対象事業）	
	(1) 寄付活動：・目標額（全体経費）を定めたくえで、コンセプトを提示し、寄付活動実施 (2) コンセプト：・学生教育の充実のために ・市民に開かれた、市民に愛される大学としての地域貢献のために (3) 展開の場所：・大学正門からメディアセンターまでの一帯
A③ ビジュアル・アイデンティティ事業	
	(1) シンボルマーク決定：(株)アイドマ代表取締役社長 村上正剛氏 ・村上氏より著作権譲渡同意書を受領（2022 年 3 月 29 日） ・「商標登録願」を特許庁に送付（出願日：2022 年 3 月 30 日） (2) シンボルマークの使用開始・公表：2022 年 4 月 20 日（プレスに投げ込み・HP で公開） (3) シンボルマーク運用マニュアル
A④ 業績・貢献・回顧資料整理事業	
	(1) 項目整理・資料収集 ・特に創立 30 周年から今日までの業績・貢献等を蒼穹から調査 ・昭和 61 年～平成 5 年は「学園だより」から抽出 ・10 周年、20 周年、30 周年のあゆみ、報告書、書籍等から情報収集

Table 3-2 創立 50 周年記念学生チャレンジ採択プロジェクト一覧

No.	創立 50 周年記念学生チャレンジプロジェクト名	チャレンジチーム名	採 択
1	創立 50 周年記念パーソナル・コンピュータ・アーカイブ展	ICT アーカイバーズ	1 次募集
2	八戸工業大学 INTRODUCTION DANCE MOVIE 50th ver.	ストリートダンス愛好会『Wollege』	1 次募集
3	八戸盛り上げ隊！！地域貢献プロジェクト	8 ブリッジ	1 次募集
4	I2 プロジェクト	システム情報工学科 2 年	1 次募集
5	50 周年でもコロナに負けるな	がんばろう学生プロジェクトチーム	1 次募集
6	Clean なフォトスポット化～噴水周辺のリメイク～	Remarkers	1 次募集
7	八戸工業大学 50 周年記念モニュメントの建設	Microbes	2 次募集
8	創立 50 周年記念パーソナル・コンピュータ・アーカイブ展 II	ICT アーカイバーズ	3 次募集

の応募が寄せられた。その結果、東京のクリエイティブディレクターである村上正剛氏（株式会社アイドマ代表取締役社長）が制作した Fig.3-1 の作品が選ばれた。デザイン・コンセプトは 8 枚の四角形を扉に見立て、無限の可能性への入口と地域に開かれた大学を象徴したものである。青 2 色のコンビネーションは、設置学部である工学とデザインの融合や、大学と地域の連携、八戸の青い海や空との共生を表現している。Photo.3-1 は本館前に掲げられたシンボルマークとロゴである。今後、看板や印刷物などあらゆる場面での使用を想定しており、本学の教育理念などが込められた新たなイメージとして、学外への浸透を図っていくこととしている。詳細は参考資料 6) を参照願いたい。

2021 年 12 月に株式会社田名部組と締結した産学連携に関する基本協定の一環として、2022 年 4 月 1 日八戸市番町に Photo.3-2(a)の本学サテライトキャンパスが開設された。通称名を番町とラボラトリー（研究室）を掛けた造語「ばんらぼ」とし、中心街における公開講座やイベント等を行う市民交流の拠点としても活用することとした「中心市街地の活性化、地域産業振興、人材育成の拠点」が開設の目的である。特に 2022 年は創立記念イヤーとして種々の公開講座が開講された。Photo.3-2(b)は 2022 年 10 月 20 日に開かれた長谷川明前学長による「橋の話」と題した公開講座であり、世界の美しい橋梁を紹介しながら、その重要性を説くものであった。また、Photo.3-2(c)は、創立記念学生チャレンジプロジェクトの一つとして採択を受けた地域共創型のパーソナル・コンピュータ・アーカイブ展であり、2022 年 5 月 21 日から 6 月 5 日まで開催された。



Fig.3-1 定められたシンボルマーク

Photo.3-1 キャンパス内に掲げられたシンボルマーク



(a) ばんらぼ会場

(b) 長谷川明前学長公開講座

(c) PC アーカイブ展赤松笙太リーダー

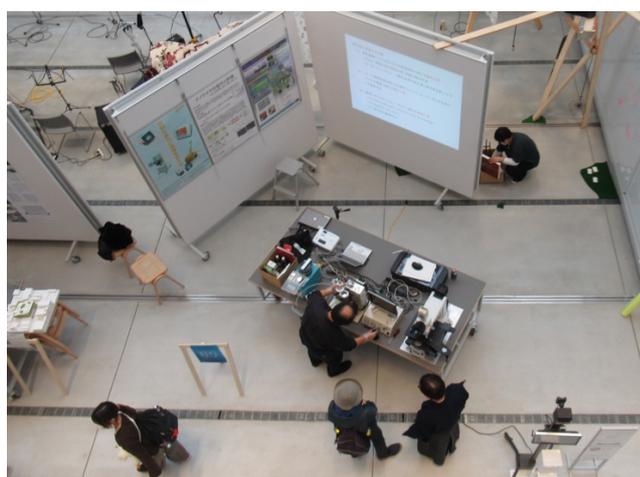
Photo.3-2 八戸工業大学番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」での記念事業

3-2. 「A⑤ 八工大まちなかキャンパス」事業

2022年10月22日(土)と23日(日)には「A⑤ 八工大まちなかキャンパス」事業の一環で第50回八戸工業大学学園祭「まちなか学園祭」を開催した。八戸市美術館と八戸市庁前広場をメイン会場とし、多くの市民が足を運び、盛況の内に幕を閉じることができた。詳細な内容を Table 3-3 に、まちなか学園祭の様子を Photo.3-3 に示す。

Table 3-3 A 記念事業部会における事業総括 (A⑤まちなか学園祭関係)

A⑤-1 まちなか学園祭：展示型教育・研究紹介、学友会展示	
	(1) 日程等：2022年10月20日(木)～23日(日)10時～16時 ※19日は準備日、24日は後片付け ※八戸市美術館の開館時間は10時～19時 (2) 場 所：八戸市美術館 ギャラリー1、2、スタジオ、ワークショップルーム、会議室 (3) 内 容：改組部会作成パネル展示(大学紹介)、学友会イベント・展示
A⑤-2 まちなか学園祭：体験型教育・研究紹介(部局展示)	
	(1) 日程等：2022年10月22日(土)、23日(日)10時～16時 ※21日は準備日、24日は後片付け (2) 場 所：八戸市美術館 ジャイアントルーム (3) 担 当：工学科の各コース、感性デザイン学科、基礎教育研究センター (4) 内 容：各部局に関する展示物、展示物に関するパネル (5) 展示方法等：展示物の説明と安全の確保のため、スタッフ(学生アルバイト)を常駐
A⑤-3 まちなか学園祭：模擬店・展示	
	(1) 日程等：2022年10月22日(土)、23日(日)10時～16時※21日は準備日、24日は後片付け (2) 場 所：八戸市美術館前広場「マエニワ」「オクニワ」 (3) 実施方法等：・目につきやすい場所となるため、総合受付を配置 ・模擬店・展示を10か所程度配置
A⑤-4 まちなか学園祭：音楽イベント(サークルなど)・模擬店	
	(1) 日程等：2022年10月22日(土)、23日(日)10時～16時 ※21日は準備日、24日は後片付け (2) 場 所：八戸市庁舎前広場「八戸市市民広場」 (3) 実施方法等：・第二受付を配置する。 ・模擬店・展示を十数か所程度配置 ・屋外ステージを用意し、軽音学部の演奏などの学友会主催イベントを実施



(a) 八戸市美術館の学科・コース展示



(b) 八戸市市民広場のステージカーと屋台

Photo.3-3 八戸工業大学創立50周年記念まちなか学園祭

4. B 記念行事部会

本学の節目となる創立 50 周年に行う記念行事は、通常は表立って伝えられないこれまでの感謝の気持ちを表せる良い機会であり、今後の進むべき道を示す機会でもある。創立五十周年記念式典、五十周年を祝う会、創立五十周年記念シンポジウムの行事を Table 4-1 に依って実施した。なお、2019 年に発生した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は 2022 年においても猛威を奮っており、季節性インフルエンザとの同時流行に備えた対応を考慮する必要があり、密を避けて感染リスクを低減するために規模を縮小して実施された。

Table 4-1 B 記念行事部会における事業総括 (その 1)

B-1 創立五十周年記念式典：コロナ感染症拡大を防ぐため、大学関係者、同窓会を中心に、規模を縮小して実施	
	<p>(1) 日 時：2022 年 10 月 22 日 (土) 15:00～16:00 受付：14:00～</p> <p>(2) 場 所：八戸グランドホテル・3F ミヤビ (3) 参加者：180 名</p> <p>(4) 次 第： 1. 開会のことば 2. 黙 禱 3. 学長式辞/理事長挨拶 八戸工業大学学長 坂本禎智 / 学校法人八戸工業大学理事長 柳谷利通 4. 来賓祝辞 前衆議院議長 大島理森氏 5. 感謝状贈呈 村上正剛氏 / 八戸工業大学学長 坂本禎智 6. 50 周年シンボルマーク披露・スピーチ 株式会社アイドマ代表取締役社長 村上正剛氏 7. 祝電披露 8. 在学生代表挨拶 学友会委員長 三田知広さん/学友会副委員長 関口結実さん 9. 閉会のことば</p>
B-2 創立五十周年記念祝賀会：「五十周年を祝う会」	
	<p>(1) 主 催：創立 50 周年周年記念事業実行委員会、共催：八戸工業大学同窓会 (2) 参加者：178 名</p> <p>(3) 日 時：2022 年 10 月 22 日 (土) 16:30～18:30 受付：16:00～ (着席形式)</p> <p>(4) 場 所：八戸グランドホテル・2F グランドホール</p> <p>(5) 次 第： 1. 開 会 2. 学長挨拶 八戸工業大学学長 坂本禎智 3. 同窓会会長挨拶 八戸工業大学同窓会会長 福士信雄 氏 4. 来賓挨拶 八戸市長 熊谷雄一 氏 5. 鏡開き 登壇者 高橋燦吉 氏、長谷川明 氏、坂本禎智 学長 村上正剛 氏、福士信雄 氏、小田 正 氏、葛西拓磨 氏 大島理森 氏、熊谷雄一 氏、橋本精二 氏、柳谷利通 理事長 6. 乾 杯 葛西拓磨 氏 7. 祝 宴 8. 50 周年の歩み (動画上映) 9. 校歌斉唱 10. 中締め・万歳三唱 八戸工業大学同窓会副会長 浅利能之 氏 11. 閉会</p>

Table 4-2 B 記念行事部会における事業総括 (その2)

B-3 創立五十周年記念シンポジウム	
(1) 日時・会場：10月29日(土) 14:00~16:10	はっちシアター2 <後援：八戸市> ・はっち広場、ばんらぼでオンライン中継
(2) 主テーマ：「工学×デザイン×地域」	大学から発信する地域の活性化
(3) 内容	
1. 挨拶	八戸工業大学学長 坂本禎智
2. 趣旨説明	八戸工業大学教授 大黒正敏
3. 基調講演	講師：京都光華女子大学短期大学部 鹿島我 教授 題目：「地方活性化に直結する産学連携20のプロジェクト～京都光華女子短大が目指す学び～」
4. 報告	
(1) 八戸工業大学 感性デザイン学部 感性デザイン学科	講師：宇野あずさ、3年：前田柚菜さん 題目：「地域のつながりを形成する場づくり：北東北でのデザイン実践を事例に」
(2) 京都光華女子大学短期大学部・ライフデザイン学科2年	牧野いずみさん、宮本若奈さん 題目：「京都の短大生が挑んだ伝統工芸との連携～課外活動で得た2年間で4年分の成長～」
(3) 八戸工業大学・工学科・建築・土木工学コース	准教授：小藤一樹 題目：「八戸を舞台にした学生の設計作品～卒業設計・総合デザインの課題から～」
5. 総合討論	題目：「地方創生における大学の役割とは？」モデレーター：マインドシェア・西澤陽介 氏
6. 講評	八戸学院大学 学長補佐 田中哲 教授

「八戸工業大学創立五十周年記念式典」は2022年10月22日(土)に八戸グランドホテルにて挙行された。(Photo.4-1) まず、坂本禎智学長が式辞を述べ、大学創立時の八戸を取り巻く状況や、これまでの教育・研究活動に触れ、多くの方々に支えられ、50周年を迎えられたことに感謝が述べられた。続いて柳谷利通理事長の挨拶の後、来賓を代表して、大島理森前衆議院議長より、祝辞を頂戴した。さらに、在学生代表挨拶を、学友会委員長 三田知広さん(システム情報工学科3年)と同副委員長 関口結実さん(システム情報工学科2年)が務めた。二人は、これまで歴史を作ってきた先輩方の支えを感じながら、次の時代に向けて大学生も大学発展の一端を担う決意が述べられた。

創立記念式典に引き続き、Photo.4-2の「五十周年を祝う会」が八戸工業大学同窓会の共催で開催された。規模は縮小されたが多くの卒業生の参加もあり盛会裏に終えることができた。これらの行



(a) 坂本禎智八戸工業大学学長挨拶

(b) 在学生代表挨拶 (三田さんと関口さん)

Photo.4-1 八戸工業大学創立五十周年記念式典 (於：八戸グランドホテル)

事に先立ち、10月17日(金)に八戸工業大学同窓会から大学へ寄付が寄せられた。これは、同窓会が母校創立50周年の節目に、より大学を盛り上げ支援することを目的としたものである。Photo.4-3に贈呈式の様子を示すが、同窓会会長の福士信雄氏と副会長の浅利能之氏の出席のもと坂本禎智学長に目録が手渡された。また、キャンパスのエントランス部に設置するとして機械系同窓会蒼峰会よりPhoto.4-4のシンボルマーク・モニュメント(1200mm×1200mm, ~50kg)が寄贈された。

2022年10月29日(土)14:00から市内はっちのシアター2をメイン会場として「創立五十周年記念シンポジウム」が開催された。テーマは「工学×デザイン×地域 ~大学から発信する地域の活性化~」であり、今大学に求められている新しい教育の形、地域に貢献する大学のあるべき姿を考える機会とした。京都光華女子大学短期大学部の鹿島我教授から「地方活性化に直結する産学連携20のプロジェクト~京都光華女子短大が目指す学び~」と題してPhoto.4-5(a)のように基調講演を戴いた。また、Photo.4-5(b)のように活動の中心となった両校の女子学生らにより討論が交わされ、地域との積極的な連携が図られていることが示された。



(a) 福士信雄八戸工業大学同窓会長挨拶



(b) 鏡開き

Photo.4-2 八戸工業大学五十周年を祝う会 (於：八戸グランドホテル)



Photo.4-3 同窓会からの寄付金贈呈 (於：学長室)



Photo.4-4 寄贈されたシンボルモニュメント



(a) 鹿島我教授による基調講演

(b) 登壇学生らによる総合討論

Photo.4-5 八戸工業大学五十周年記念シンポジウム (於：八戸はっち)

5. C 記念誌部会

八戸工業大学創立 50 周年を記念し、大学の歴史、現況、および将来の展望について記録し、アウトター & インナーブランディング活動の一環として、地域貢献を含めて本学の活動を示し、ステークホルダーへ本位置付けを明確にし、認識を深めるために記念誌を出版することとしてTable 5-1の事業を実施した。記念誌編纂では、Fig.5-1のようにステークホルダーとの関係を明確にしなが作業が進められた。記事の中ではPhoto.5-1のように学生と学長との座談会が設けられ、学生目線の大学像も紹介された。編纂したPhoto.5-2の記念誌のデータを次に示す。

- ・書名：八戸工業大学創立50周年記念誌
- ・発行：八戸工業大学
- ・頁数：224頁
- ・発行日：2022年（令和4年）10月17日（月）
- ・製作 / 印刷：(株) 日本ドリコム
- ・編集：八戸工業大学創立50周年記念事業記念誌部会実行委員

Table 5-1 C 記念誌部会における事業総括

C-1 記念誌作成における留意事項	
	(1) 重点内容：2002年（30周年記念）から2022年までの20年間を中心に編集 (2) 重点内容：教育研究面で学生を交えて地域に貢献する大学を明示して読み返せる記念誌 (3) 紙面媒体の提供とともにインターネット上でデジタルパンフレットを公開する。
C-2 市長-学長トップ会談について	
	(1) 目的：YouTubeでの公開、及び記念誌の対談記事としての公開 (2) 収録：2022年8月02日（火）11:00-12:00 「ばんらぼ」
C-3 発行部数：2,400部	
	(1) 内訳：① 記念式典来賓（報道関係、官庁、議員、大学、高校、企業）：222部、② 県内関係者（欠席者、大学、高校など）：428部、③ 学生（学部、大学院）：1,153部、④ 学内（教職員、法人職員、部局事務室、校友会）：303部、⑤ 学外原稿執筆者：25部、⑥ 学事担当：269部
C-4 「五十周年を祝う会」における八戸工業大学通史紹介について	
	(1) 社会連携学術推進室 佐藤南氏が動画を作成（放映時間：6分10秒）
C-5 八戸工業大学紀要への投稿（報告）	
	(1) 八戸工業大学紀要第42巻に「報告」として創立記念事業の内容を紹介する。
C-6 八戸工業大学創立50周年記念事業報告書	
	(1) 創立記念事業の詳細な内容を後人へ伝えるために報告書を作成する。

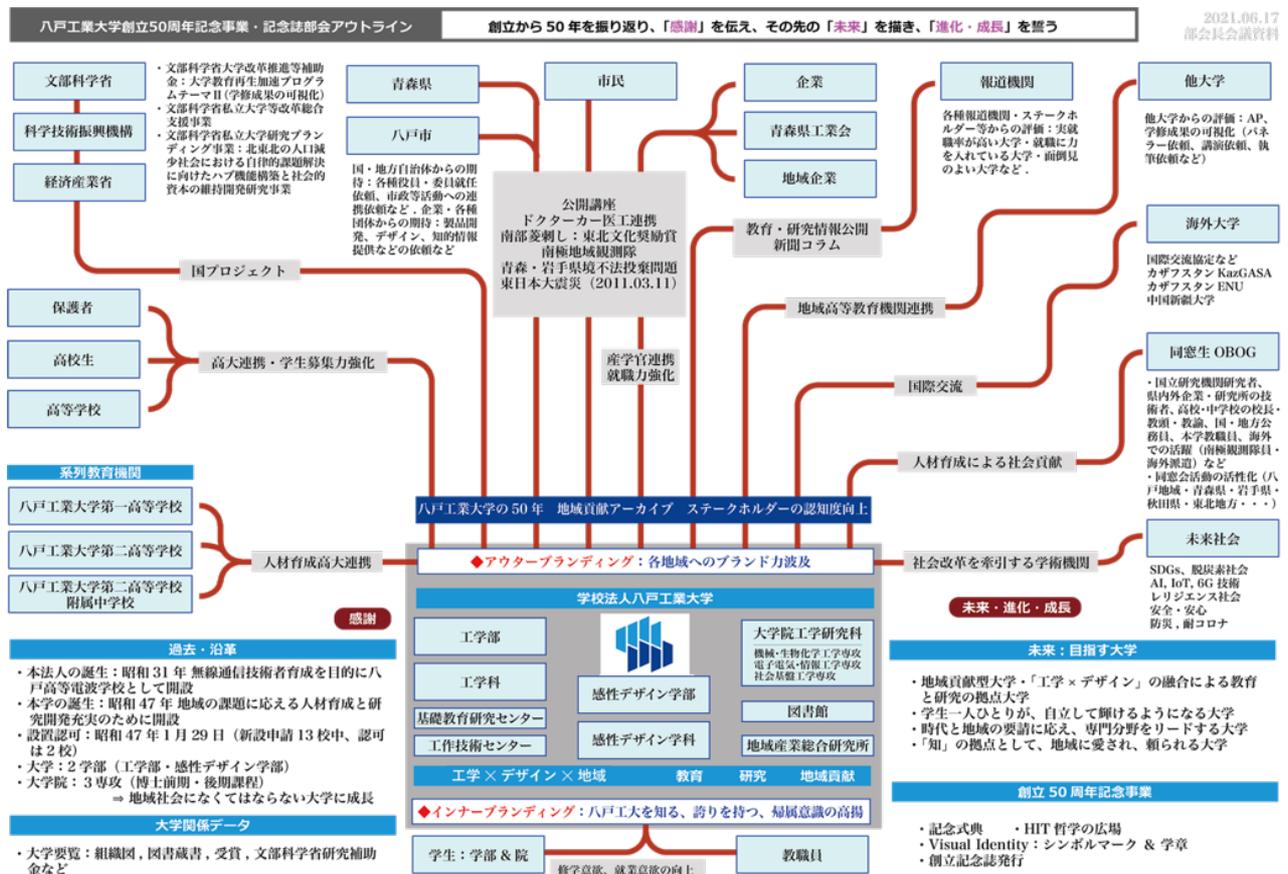


Fig.5-1 八戸工業大学のステークホルダーとの関わり



Photo.5-1 学生と学長らによる座談会風景

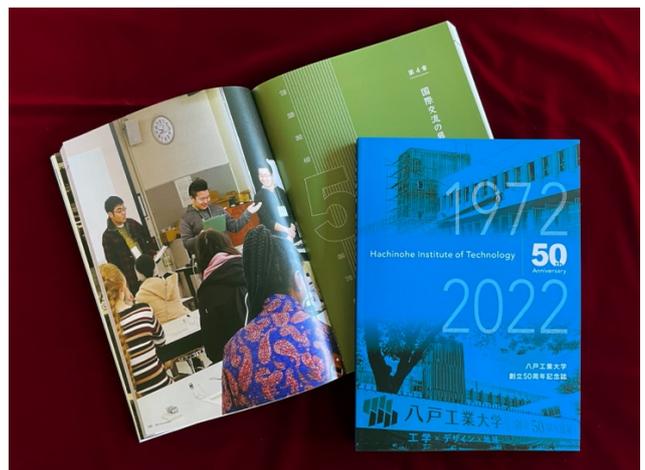


Photo.5-2 刊行した創立記念誌(7)

6. D 広報・広告部会

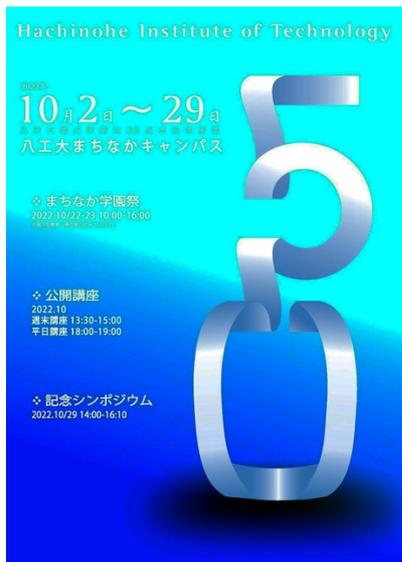
記念事業における広報は、大学と地域の人々との関係を強める役割を担っており、諸事業を通して大学の認知度を上げ、理解を促すことが目的である。Table 6-1 に事業総括を、Fig.6-1 には作成されたポスターの一部を示す。

Table 6-1 D 広報・広告部会における事業総括 (その1)

D-1 新聞掲載	
	(1) デーリー東北新聞社 ・掲載回数：4回 ・担当：大野事務部長代行、佐藤南、小玉
	・掲載日・内容： 2022年10月19日「①創立」市民が待ち望んだ大学 2022年10月20日「②学部体制」市民生活に貢献の実績も 2022年10月21日「③地域連携」学生の枠超え人材育成 2022年10月22日「④完 坂本禎智学長インタビュー」刺激与え続ける機関に
	(2) 東奥日報社 ・掲載回数：3回 ・担当：大野事務部長代行、佐藤南、小玉
	・掲載日・内容： 2022年10月19日「①キャンパス今昔」学生支援 教員が親身に 2022年10月20日「②感性デザイン教育」柔軟な発想で課題解決 2022年10月21日「③工学研究」困難なテーマで成果
D-2 新聞広告	
	東奥日報社 & デーリー東北新聞社 いずれも 掲載日：10月14日(金) 5段カラー広告
D-3 TV告知	
	青森テレビ「わっち!!」
	・放送番組 1. 青森テレビ「わっち!!」内の「わっちクエスト」コーナー(生放送) 2. 毎週16時15分～ ・放送枠・撮影場所 1. 日時：2022年10月17日(月)16:25～17:50 出演時間 ①16:34(紹介)、②16:53(CMカット)、③17:10(ゲーム・告知) ゲスト勝利：40秒、引き分け：30秒、ゲスト敗北：15秒 2. 場所：青森県観光物産館アスパム ※集合は1階正面玄関前 ・出演 1.八戸工業大学学友会(学園祭実行委員会) 学友会委員長 G206084 三田 知広 (システム情報工学科3年) 学友会副委員長 G216057 関口 結実 (システム情報工学科2年) ・担当：小玉(連絡等)、笹田次長(当日引率)：告知用フリップ
	RAB 青森放送「1550 ニュースリーダーWith」
	・放送日：2022年10月18日(火)15:50～16:50 CM30秒枠 ・担当：大野事務部長代行
D-4 TVニュース取材	
	青森テレビ「YAHOO!ニュース」 ・担当：阿波学務部長、三田学友会委員長、小玉(連絡等)
	・放送日：2022年10月22日(土)18:21 ・内 容：「人工イクラ作りも 八戸工業大学まちなか学園祭 創立50周年関連イベントで」
D-5 デジタルサイネージ広告(まちなか学園祭)	
	・場 所：リフォームパレスドルフィン前の大型ディスプレイ ・日時等：2022年9月20日～10月21日 ・担 当：学友会(学園祭実行委員会)

Table 6-2 D 広報・広告部会における事業総括 (その2)

D-6 八工大まちなかキャンパスポスター、チラシなど	
八戸工業大学創立 50 周年・学生チャレンジプロジェクト募集ポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・目的：学生への周知（八戸工業大学創立 50 周年・学生チャレンジプロジェクト募集） ・制作：感性デザイン学部 4 年 北向晃世（当時） ・2021 年 5 月 28 日学内の各掲示板へ掲示
まちなか学園祭ポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・制作：学友会（学園祭実行委員会） ・学内、八戸市美術館、ばんらば、市内各所に掲載
八工大まちなかキャンパスポスター、チラシ	<ul style="list-style-type: none"> ・制作：東方先生、感性デザイン学部 3 年 胡景瑛 ・学内、八戸市美術館、ばんらば等に掲載
D-7 ばんらばでの広報	
	<ul style="list-style-type: none"> ・創立 50 周年事業を PR するポスターを作成し、掲示 ・動画の放映（市長と学長の対談、学園祭予告など）
D-8 大学 Web ページの創立 50 周年記念ページの運用	
	<ul style="list-style-type: none"> ・Google サイトを利用、URL：https://50th.hi-tech.ac.jp ・2021 年 6 月 1 日公開、2022 年 4 月 4 日更新
D-9 ノベルティグッズ制作（クリアファイル）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・枚数：3,000 枚、両面フルカラー印刷、個包装無し ・各種イベント、記念式典、五十周年を祝う会で配布



(a) まちなかキャンパス



(b) まちなか学園祭



(c) まちなか公開講座

Fig.6-1 創立 50 周年記念事業関係の各種ポスター

7. E 記念改組部会

E 記念改組部会はインナー&アウターブランディング活動を実施することとして、下記のような内容を設定した。

- (1) これまで本学が取り組んできた教育改革や改組による教育の魅力を地域に伝えるビジュアル素材の作成
- (2) 例えば、学長インタビュー、市長との対談の動画、教育改革と将来像など
- (3) 教育の魅力を伝えるパネル展示は、中心街での移動展も企画

具体的に取り組んだ内容をTable 7-1に纏めている。また、Photo.7-1には各地域におけるポスター移動展の一部の様子を示しており、幅広い方々から八戸工業大学を理解して頂いたものと期待している。

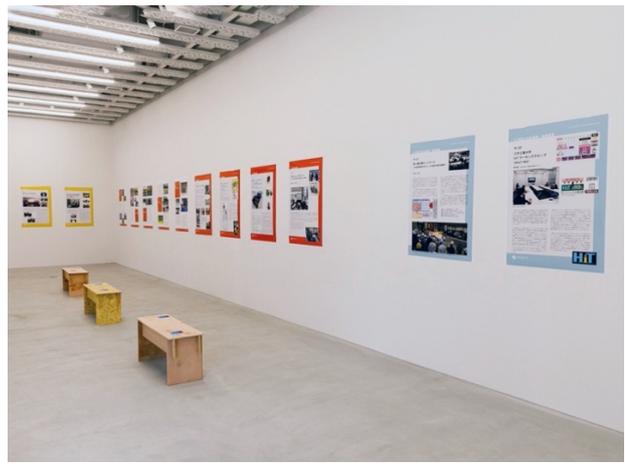
2022年8月2日(火)、感性デザイン学部の川守田礼子准教授の司会で、熊谷雄一八戸市長と坂本禎智学長との対談が行われた。(Photo.7-2) 会場は八戸市の中心街に位置し、今年4月に開設した番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」であった。これは、本学が創立50周年を迎えたことを記念して開かれた。対談は1時間という限られた時間であったが自治体と大学の長としての二方には八戸市と八戸工業大学の現状、将来像、そしてより緊密な連携像について語って戴いた。詳しくはYouTubeにて公開されており、その要旨が創立50周年記念誌に記載されている。(YouTubeのアドレス：<https://www.youtube.com/watch?v=65Poe4qow88&t=34s>)

Table 7-1 E 記念改組部会における事業総括

E-1 展示用ポスター作成 (合計：62枚)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立50周年記念事業の概要 : 2枚 ・ 八戸工業大学の歴史 : 5枚 ・ 八戸工業大学の教育(魅力・発展・充実) : 12枚 ・ 学部・学科・コース等の紹介・特色 : 10枚 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究と社会貢献・地域連携 : 21枚 ・ 学生の活躍 : 9枚 ・ 国際交流 : 2枚 ・ 未来に向けて : 1枚
E-2 ポスター展示：移動展開催 (8月下旬～10月上旬)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 弘前市：イトーヨーカドー弘前店：第二立駐連絡口へ続く通路 (2022年8月27日-9月13日) ・ 青森市：イトーヨーカドー青森店：1F正面入口(時計側) (2022年9月17-19日) ・ 滝沢市：ビッグルーフ滝沢：ギャラリー(バス停待合所) (2022年9月23-25日) ・ 盛岡市：イオン盛岡南：1Fさんさ広場 (2022年10月1-2日) ・ 八戸市美術館：ギャラリー1 (20枚)、ギャラリー2 (42枚) (2022年10月20-23日) ・ キャンパス内展示：30枚 (2022年10月24日-12月16日) 	
E-3 市長-学長トップ会談について	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 目的：YouTubeでの公開、及び記念誌の対談記事としての公開 (2) 収録：2022年8月02日(火) 11:00-12:00 「ばんらぼ」 (3) 公開：八戸市との合意を得ながら適時公開 	



(a) イトーヨーカドー弘前店連絡通路での展示



(b) 八戸市美術館：ギャラリーでの展示

Photo.7-1 各地におけるポスター展示の移動展



(a) 対談前の記念撮影（左から：MC 川守田准教授、坂本学長、熊谷市長）



(b) 八戸市と八戸工業大学の将来を語り合う二人

Photo.7-2 八戸市長と学長による対談（於：八戸工業大学番町キャンパス ばんらぼ）

8. F 総務部会

F 総務部会においては、Table 8-1 のように支障無く各行事が実施されるべく活動を行なった。また、要となる予算執行においても効率良く効果が出すべく管理を行なった。

Table 8-1 F 総務部会における事業総括

F-1 庶務・渉外	
	(1) 記念事業の各行事が円滑に実施できるよう、各行事の計画を基に事務的、および渉外的な業務等を実施：担当 事務部学事担当 (2) 記念式典、祝賀会実施に関する業務 ・来賓、招待者リストアップ ・記念品、50周年記念ノベルティグッズ等選定 (3) 新聞広告： 東奥日報社 & デーリー東北新聞社いずれも掲載日：10月14日（金）5段カラー広告 (4) 各界ステークホルダーへ記念誌のスムーズな配送に関する業務
F-2 予算管理	
	(1) 予算管理、会計に関する業務：担当 法人事務局財務会計担当

9. 事業の進展経過とまちなかキャンパスの設営

創立50周年事業を大学祭と同時開催として相乗効果を図ることとした。従来は大学祭を大学キャンパスで実施していたが、地域の方々が訪れやすい場所を中心街に設定することとした。八戸市は空洞化が進む中心街活性化に向け、大型公共施設の整備が進み、2011年にオープンした「はっち」を皮切りに2021年11月に八戸美術館が一連の整備事業の集大成として位置づけられている。本学でも美術館会館に合わせて、田名部組（八戸市）との「番町サテライトキャンパスばんらば」を整備し、新たな街並み創りに参画している。こうした背景を踏まえ、八戸市の理解を得ながら会場を Fig.9-1 に示す中心街に設営することとし、「まちなか学園祭」と名付け実施した。

実際の事業実施経緯について主たる項目を中心に Table 9-1 に示す。実施状況は逐次、学長と部会長から構成される記念事業部会長会議において報告され、相互に事業部会の連携を図るなどして円滑化を図った。この会議の開催は18回に及んだ。この背景のもとに、大学として創立から50年を振り返り、地域へ「感謝」を伝え、その先の「未来」を描き、「進化・成長」を誓うとして様々な事業を実施した。この事業実施を通して、大学の全体像を示すことでインナーブランディングとアウターブランディング双方において共通した実体を有することができ、今後の本学の在り方について地域との連携がより向上するものと期待される。

10. おわりに

2011年に本学は未曾有の東日本大震災に遭遇し、急遽翌年の2012年の創立40周年記念事業を取り止め、All Universityの体制で地域の創造的復興を図った。今回はAll Universityで大学の地域との関わり方を考える位置付けで創立記念事業が実施された。地域の方々にとっては、普段から本学の情報に接する機会があると思われるが、断片的なものになってしまう嫌いがある。この度の創立50周年記念事業を通して、インナーブランディングとアウターブランディングの観点から大学の全体像を示すことで、本学が今後地域とより密接な連携を築けることを期待したい。

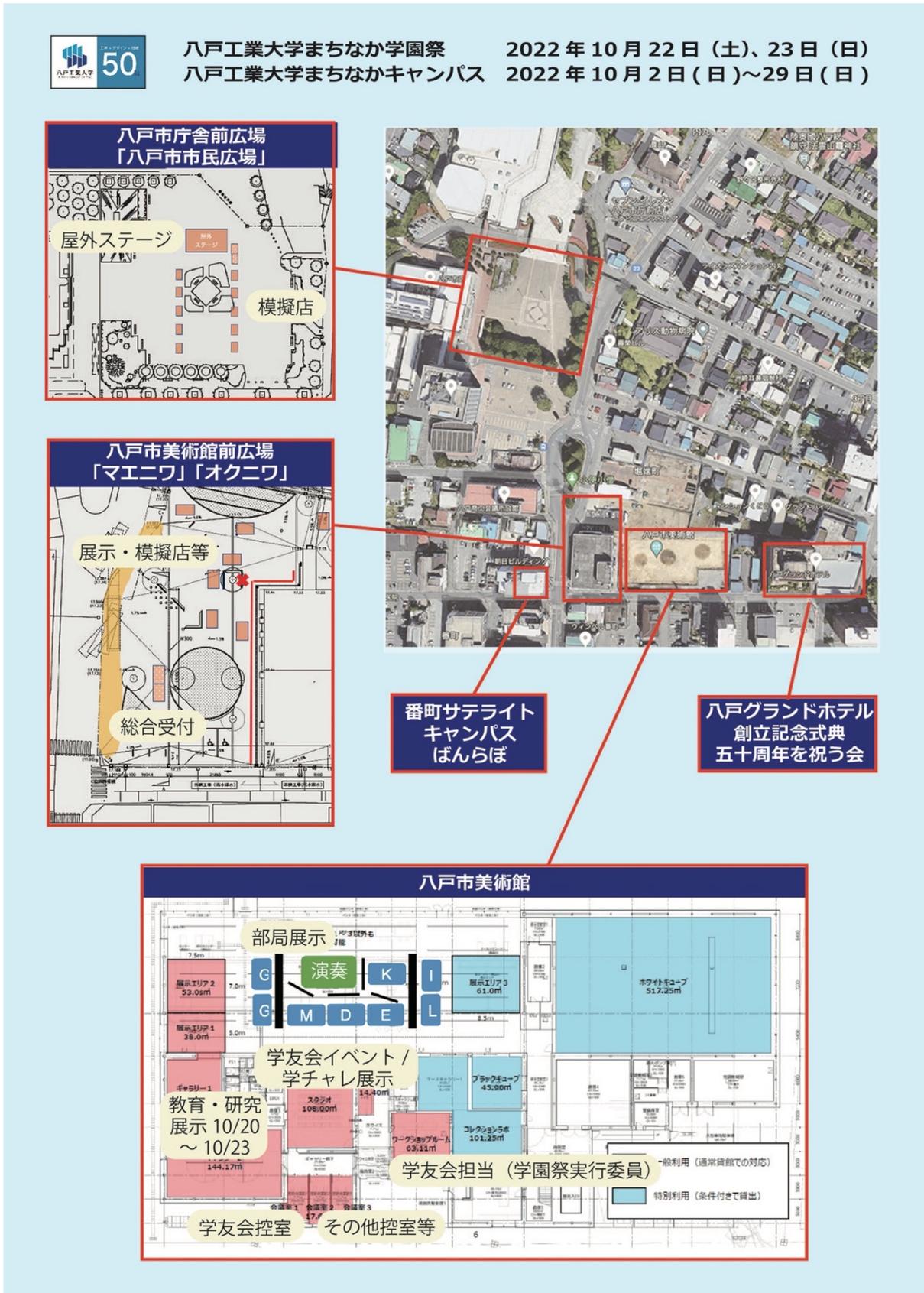


Fig.9-1 八戸市中心街で繰り広げられた「八戸工業大学まちなかキャンパス」の配置図

Table 9-1 八戸工業大学創立 50 周年記念事業の経過

活動項目	2021年(令和3年)												2022年(令和4年)												2023年(令和5年)		
	04月	05月	06月	07月	08月	09月	10月	11月	12月	01月	02月	03月	04月	05月	06月	07月	08月	09月	10月	11月	12月	01月	02月	03月			
創立50周年記念事業 部会長会議					04/22キックオフ ・05/26実行委員会設立 ・06/17部会長会議 02nd ・08/08部会長会議 03rd ・09/15部会長会議 04th ・10/28部会長会議 05th ・12/02部会長会議 06th ・01/12部会長会議 07th																						
A. 記念事業部会					04/20シンボルマーク制定																						
A① 学生がつくる 50周年事業					06/30学子チャレ一次募集																						
A② みんなの広場 事業																											
A③ ビジュアル・ アイデンティティ 事業																											
A④ 業績・貢献・ 回顧資料整理事業																											
A⑤ まちなかキャ ンパス事業																											
B. 記念行事部会																											
C. 記念誌部会																											
D. 広報・広告部会																											
E. 記念改組部会																											
F. 総務部会																											
活動項目																											

謝 辞

八戸工業大学創立 50 周年記念事業を進めるにあたり、青森県、八戸市の地域自治体など多くの方々の御支援を戴いた。また、「まちなかキャンパス事業」の会場とした八戸市美術館、八戸市には深い御理解と御支援を戴いた。加えて、本学学生、教職員、法人職員には事業実施についてスタッフとして尽力戴いた。こうした地域連携などがあるが故に滞りなく事業を遂行できた。ここに関係各位へ感謝の意を表したい。

参考資料

- 1) 八戸工業大学 10 年のあゆみ, pp.57 (発行: 1982 年 10 月 1 日) .
- 2) 学校法人八戸工業大学創立三十年誌, pp.262 (発行: 1986 年 10 月 8 日) .
- 3) 八戸工業大学創立 20 周年記念誌「新たな未来への展望」, pp.132 (発行: 1992 年 10 月 16 日) .
- 4) 八戸工業大学創立 30 周年記念・大学院完成記念誌, 冊子 pp.17, DVD pp.402 (発行: 2002 年 7 月 5 日) .
- 5) 坂本禎智学長: 「八戸工業大学創立 50 周年記念事業 キックオフ・ミーティング資料: 八戸工業大学創立 50 周年記念事業概要」 pp. 2 (2021 年 4 月 22 日) .
- 6) 高屋喜久子, 谷津昌樹, 畑中ひとみ, 坂本禎智: "八戸工業大学シンボルマーク制定に関する報告," 八戸工業大学紀要, Vol.41, pp.133-141 (発行: 2022 年 3 月 1 日) .
- 7) 八戸工業大学創立 50 周年記念誌, pp.224 (発行: 2022 年 10 月 17 日) .

要 旨

八戸工業大学は 1972 年 (昭和 47 年) に開学し、今年 2022 年 (令和 4 年) には創立 50 周年という大きな節目を迎えた。この背景のもとに、大学では、創立から 50 年を振り返り、地域へ「感謝」を伝え、その先の「未来」を描き、「進化・成長」を誓うとして 6 個の事業を実施した。本報告では、この事業内容を紹介した。この度の創立 50 周年記念事業を通して、インナーブランディングとアウトターブランディングの観点から大学の全体像を示すことで、本学が今後地域とより密接な連携を築けることを期待したい。

キーワード: 八戸工業大学、インナーブランディング、アウトターブランディング、創立 50 周年記念事業